

研修の夏 ～本物につながる稽古～

総務企画部長兼企画課長 山口博徳

今年の夏も、多くの先生方が本教育センターを訪れています。
教育の未来は教師の資質向上にかかっています。
教育センターは、様々な研修を企画し、計画的・継続的に学び続ける教師を支援していきたいと考えています。

教育センター研修で、よく取り入れているのが模擬授業です。

模擬授業の目的は、授業者としての構想力や展開力を養うことですが、その過程において「自分自身の授業を知る」ことができます。

研修仲間と授業を構想する中で、自分の指導観や思考の傾向、不足していた視点等が見えてきます。

また、実践にあたっては、声の量、強弱、話す速さ、間のとり方など自分で気づいていない基本的な技術が赤裸々になります。
自分を客観的に見ることができ、授業改善につながります。



「子供が受けている授業を知る」こともできます。

センターの模擬授業では、「理解が早くて活発に発表できる子」「勉強が苦手な理解も十分でない子」等の想定で、受講者が子供役になります。役を演じているうちに、「わかりやすい」「自分は大切にされている」「退屈だ」「置き去りにされている」等、子供にどんな感情が沸き起こっているのかがわかります。

この心情は、教師の働きかけと密接なつながりがあることということに気づきます。相手意識の高い授業につながります。



授業は、一定の学習内容を、特定の集団に下ろし、限られた時間の中で、個々に成果を残さなければなりません。至難の業です。それを成し遂げるところに教師の専門性があります。模擬授業はその責任を自覚し、覚悟を決める研修でもあります。

模擬はあくまでも模擬です。しかし、どの世界にも稽古や練習のない本物はありません。本物の授業を提供するために、質の高い稽古は積むべきです。

「センターの研修は大変だけど、勉強になるね」。

受講生同士がそう話しながら、センター館内を歩いていました。

そんな呟きを励みとして、今後も「学校支援・教員応援」に邁進いたします。